

10年に1度の大調査（国勢調査）

「国勢調査」。国の人口や世帯の状況を明らかにするために実施されるとしても大切な統計調査です。日本では1920年（大正9年）から5年に1度行われており、今年2020年で100周年を迎えます※¹。滋賀県でも2月に国勢調査の円滑な運営と調査に万全を期するため滋賀県実施本部を設置し、準備を進めているところです。9月中旬からの調査では、ぜひ皆様のご協力をお願いいたします。

さて、米国でも今年は、国勢調査【US CENSUS 2020】が実施されます。合衆国憲法により連邦政府が「米国に居住している人を数える。」ことが義務付けられており、1790年から10年ごとに調査されています。市民か市民でないか、永住権（グリーンカード）やビザを有するかどうかは関係なく、基準日（4月1日）に米国内に住んでいる全ての人を数えることが目的となります。

この国勢調査の結果により、連邦政府が毎年、税金から徴収した資金（6750億ドル以上）を各州等に返還する額が変わります。返還額は州に何人住んでいるかにより決定され、国勢調査の後10年間はその人数が適用されます。駐在員のいるミシガン州では、2010年の調査結果により年間約300億ドルを獲得してきました。この資金は、子供の教育や医療、道路修復など様々な事業に活用されます。

3月中旬、我が家のポストにも調査書が送られてきました。分厚い調査書が届くのかと思っていましたが、封筒を開けてみると、.....、インターネットで回答するために必要なIDが記入されたカードと回答方法に関する説明書のみが入っていました。インターネットで回答できない方は紙（郵送）での回答、電話回答が可能です。質問は9つで、私は手元のスマートフォンで回答。所要時間は10分程度でした。

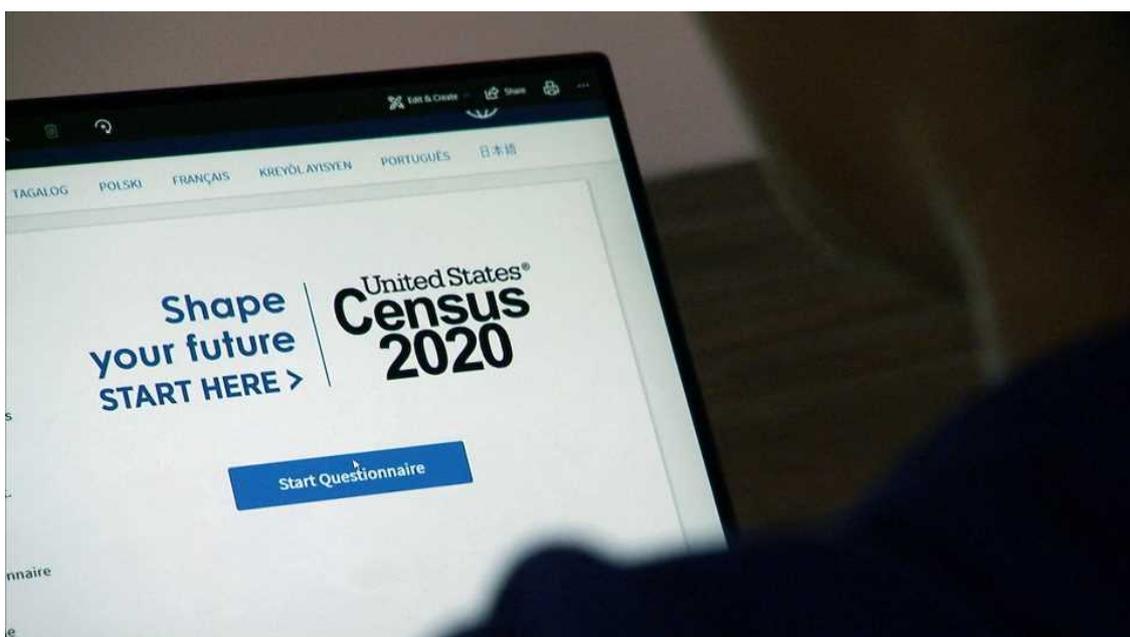


Photo: U.S. Census Bureau

回答するにあたって、驚かされたのが多言語表記の充実ぶり。インターネット、電話で回答する場合には、日本語を含めタガログ語、ロシア語、ポーランド語など13の言語翻訳サービスが提供されており、US CENSUS のウェブサイトは59 (!) の言語で閲覧が可能となっています。

さらに、米国国勢調査 2020 のキャッチフレーズは、“Shape your future. START HERE.” は英語だけでなく、様々な多文化コミュニティにもコンセプトがきちんと届くように、12 言語（アメリカンインディアンやアラスカ原住民の言語を含む）に翻訳され、発表されています。日本語では「未来のカタチ。ここからスタート」です。

ちなみに、2020 年はインターネット、郵送、電話での回答が可能となり、調査担当者はスマートフォンを使用して未回答者に対して訪問調査を行います。1790 年当時は馬または徒歩で、約 650 人の法務官と助手がパーチメント（薄手の動物皮）で作られた様式に調査結果を記録していたのだそうです^{※2}。

※1 「国勢調査 100 年のあゆみ」 総務省統計局

https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020campaign/gallery/pdf/ayumi_all.pdf

※United States Census 2020, U.S. Department of Commerce

<https://2020census.gov/en.html>

※2 How does the 2020 Census compare to the 1790 count? U.S. Department of Commerce

(2020 年と 1790 年では国勢調査どう違う? 米国商務省)

<https://2020census.gov/en/what-is-2020-census/focus/years-counting.html>